

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～滋賀県～

- 生徒の英語力が県目標（中学校：英語検定3級取得程度以上45%、高等学校：英語検定準2級取得程度以上45%）に到達していない。
- 英語教員の英語力が県目標（英語検定準1級取得程度以上中学校：45%、高等学校：70%）に到達していない。
- 英語指導に対する小学校教員の不安が多い。

○県教育委員会による研修や授業研究会を充実させ、その成果を普及させることにより、教員の英語力・指導力および生徒の英語力を向上させる。

具体的な取組内容

研修協力校（中学校）での研究授業



- 全県・全校種への授業公開
 - ・事業における授業研究会：35回
 - ・小学校での授業研究会：64回
- 市町内教科主任部会と連携
- 市町やブロックでの伝達
- 校内伝達や小学校での校内研修
- 教育研究部会との連携

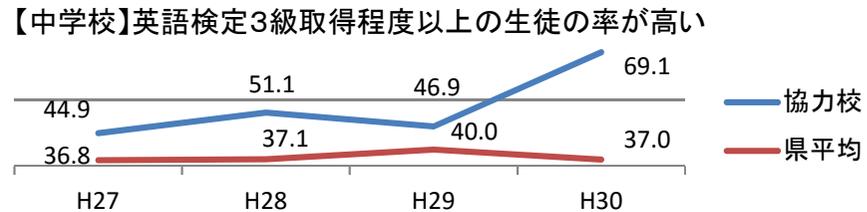
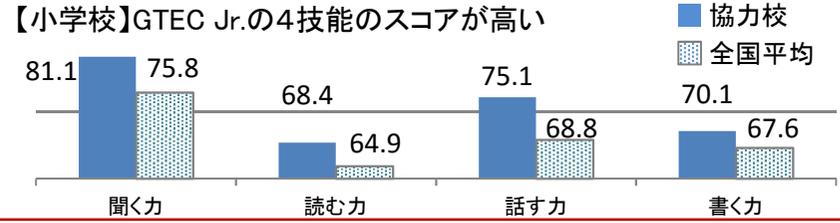
- 「CAN-DOリスト」の取組
 - ・県モデル「CAN-DOリスト」平成24年度作成・配付
 - ・新モデル「CAN-DOリスト」平成30年度配付予定

- 研修会の充実
 - ・英語教育カスケード研修：10回
 - ・英語科指導力向上研修等：5回
 - ・英語科授業力アップ研修：2回
 - ・英語力ブラッシュアップ研修：3回

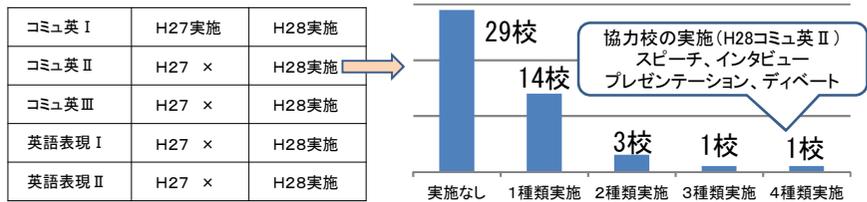
成果の波及・周知

- H30研修協力校における授業研究会による実践の普及（H27～30実績）
高等学校：13回 中学校：10回 小学校：9回
- 新滋賀県モデル「CAN-DOリスト」言語活動事例の普及（H30予定）
研修協力校と県事業指定校による小中高の「CAN-DOリスト」の作成
- 研修協力校の全英連滋賀大会での実演授業による実践の周知と普及
虎姫高「虎姫高校で育てたい学習者像を目指した英語指導のあり方」
竜王中「即興的な対話力と発信力の育成 ～言語活動の指導と評価～」

協力校の成果と課題



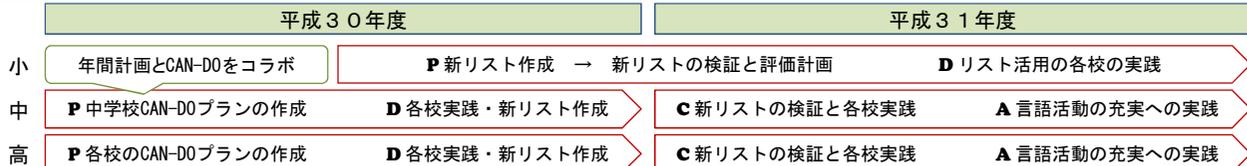
【高等学校】パフォーマンステストの実施状況や内容が向上している



課題：成果の普及が不十分で、生徒の英語力が県目標値に達していない

課題解決のための手立て

「CAN-DOリスト」の活用により、児童生徒の到達状況を把握し、英語力を高める手立てを考えて各校で実践 →よい事例を県内に普及



平成28～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～竜王町立竜王小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・町内の学校には外国人児童生徒の在籍はなく、外国人観光客と出会う機会も少ない。そんな環境において、児童が英語を学ぶ目的を正しく理解し、主体的に学ぼうとする姿勢を育むために、事業および外部専門機関との連携を活用する。

具体の取組の内容

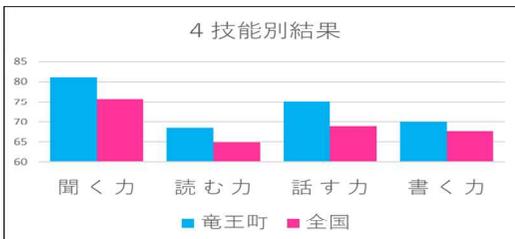
- ・町教委による英語検定補助制度を活用した英検受験の促進や本事業を活用したGTEC Coreにより英語力を測定し、児童の目標設定の一助とする。
- ・ICTを効果的に活用し、英語圏の文化や背景に触れさせ、児童の英語学習への関心を高める。
- ・大学教授、県教育委員会指導主事を招いて授業研究会を実施することで、教員のスキルアップを図る。
- ・専科指導担当加配教員がALTやJTEと連携し、児童の憧れやモデルとなるような様々な英語を使用する場面を設定し、これからの時代に英語が必要な言語であることを感じさせる。



- ・職業において英語を使用されている町内在住のボランティアによる講演会を実施する。
- ・児童が英語を学ぶ動機付けとなるように中学生によるアメリカとの交換留学制度を活用する。また、参加した中学生の姿を見ることで英語を学ぶ目標を持ったり、話すことへの憧れを抱いたりする機会とする。
- ・英語が話せる喜び、伝わる喜びを感じる機会として、夏休みに町内で実施される子ども英語スピーチ大会を有効に活用する。

成果①

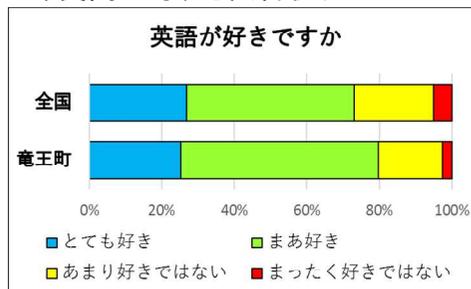
	(竜王町)	(全国)
トータル	294.6	277.0 / 480
聞く力	81.1	75.8 / 120
読む力	68.4	64.9 / 120
話す力	75.1	68.8 / 120
書く力	70.1	67.6 / 120



GTEC Junior2結果(H29.12月)

成果②

「英語が好きですか」(同左結果)という質問に対する回答状況

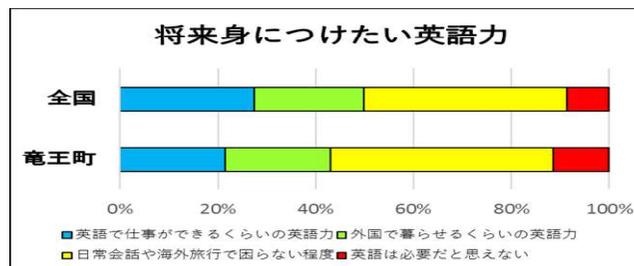


ほぼ8割の児童が肯定的な回答している。「まったく好きではない」の回答率も全国から見ると低い傾向にある。

GTEC Junior2結果(H29.12月)

今後の課題・方向性

- ・児童の英語力と教科としての魅力については高まっている一方で、以下に示す「将来身につけたい英語力」については消極的な回答が過半数を占める。先述したとおり、日常的な外国人との関わりが少ない地域として、子どもたちに英語を学ぶ必要性や学びたいと思う気持ちにさせるための工夫を重ねていく必要がある。



平成29～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～竜王町立竜王中学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・英語科教員の異動に左右されない、学校としての教科指導体制づくり
- ・主体的・対話的で深い学びを目指した英語科としての教科指導の在り方

具体の取組の内容

- ・ICTの効果的な活用を目指すとともに、作成したICT教材の共有化を推進。
- ・CAN-DOリスト滋賀県モデルを参考に学校独自で作成したCAN-DOリストにより学習到達目標を設定し、日々の指導と評価につなげている。



- ・町教委による英語検定補助制度を活用した英検受験の促進や本事業を活用したGTEC Coreによる英語力の測定。
- ・平成24年度から今年度まで、大学教授および県教育委員会指導主事を招いての授業研究会を年間2回実施。他市町の小中学校、高等学校英語教育担当教員や市町教育委員会英語教育担当者の参加も年々増加してきた。

竜王中学校CAN-DOリスト

学年	基礎	基本	応用	発展
5	英語の発音・聴き取りが正確である。	英語の発音・聴き取りが正確である。	英語の発音・聴き取りが正確である。	英語の発音・聴き取りが正確である。
4	英語の発音・聴き取りが正確である。	英語の発音・聴き取りが正確である。	英語の発音・聴き取りが正確である。	英語の発音・聴き取りが正確である。
3	英語の発音・聴き取りが正確である。	英語の発音・聴き取りが正確である。	英語の発音・聴き取りが正確である。	英語の発音・聴き取りが正確である。
2	英語の発音・聴き取りが正確である。	英語の発音・聴き取りが正確である。	英語の発音・聴き取りが正確である。	英語の発音・聴き取りが正確である。
1	英語の発音・聴き取りが正確である。	英語の発音・聴き取りが正確である。	英語の発音・聴き取りが正確である。	英語の発音・聴き取りが正確である。

成果①

- ・生徒の英語力 () は全国【英検3級相当】
- | | | |
|--------|---------------|------------|
| 平成27年度 | 44.9% (36.6%) | 全国比【+ 8.3】 |
| 平成28年度 | 51.1% (36.1%) | 全国比【+15.0】 |
| 平成29年度 | 46.9% (40.7%) | 【全国比+ 6.2】 |



成果②

- ・教員の英語使用率 () は全国【英語使用率75%以上】
- | | | |
|--------|---------------|------------|
| 平成27年度 | 66.7% (46.5%) | 全国比【+10.2】 |
| 平成28年度 | 100% (53.7%) | 全国比【+46.3】 |
| 平成29年度 | 100% (62.6%) | 【全国比+37.4】 |



今後の課題・方向性

- ・平成30年度は、これまでの本事業への継続した取組の結果「全英連滋賀大会」の舞台において授業実演の機会を与えていただいた。この経験を本校の新たな出発点として位置づけ、以下の4点を中心にもうワンステップ上の英語指導に努める。

- ①英語教育の質の向上とレベルの均一化。
- ②「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」につながる学習活動の整理および教師と生徒における共有。
- ③外部検定試験の更なる活用と分析・改善。
- ④生徒だけでなく教員の学ぶ意欲の向上。

平成27～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～県立虎姫高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・4技能をバランスよく育成するための、具体的かつ現実的な目標設定とそのための授業指針の策定
- ・表現力・発信力を伸ばし、かつそれを正しく評価するための多角的指標の活用

具体の取組の内容

・授業改善

- ①自己評価シートの活用
- ②振り返りシートの活用

活動スキル	自己評価			
	4月	7月	12月	2月
読				
聴				

学年	教科	単元	学習目標
1年次	英語	Lesson 4	12P-16.4 per

- ③パフォーマンステストの活用
- ④外部講師による継続的な指導助言

- ・英語科CAN-DO合宿の実施(年3回)
 - ①教科指導と教育目標・学習スキルとの相関
 - ②学期ごとの目標の確認と共有
 - ③CAN-DOリストの改訂



- (外部検定、CEFRとの関係性構築)
- ④G-TEC(1年次1回・2年次2回)結果の分析とそれに基づく指導計画の修正

学年	教科	単元	学習目標	評価	指導計画
1年次	英語	Lesson 4	12P-16.4 per		

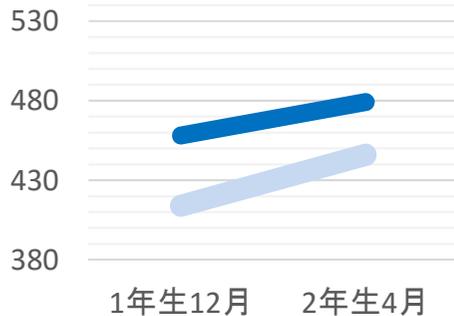
- ・1年コミュニケーション英語 I (4単位)における実践コミュニケーション(1単位)の実施



成果①

【英語力の推移】

G-TEC for students Score(総合)



上が本校、下が全国平均 リスニング・ライティングの伸びが顕著

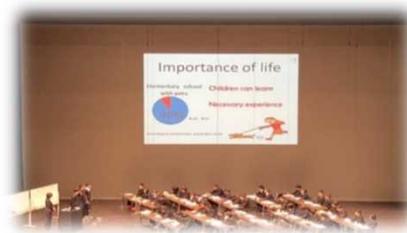
成果②

【生徒】

- ・発話に対する積極性の向上
- ・即興力の向上

【教員】

- ・英語使用頻度向上
- ・教員間の連携強化



全英連滋賀大会での授業実演

今後の課題・方向性

- ・使用英語の精度向上のための語彙の増強と文法力の育成
- ・発話の内容やレベル向上に向けた読解力の強化
- ・B1レベル 90%以上 B2レベル 60%以上
- ・批判的思考スキルと感情スキルの育成
- ・地域の小中学校とのさらなる連携強化

GTEC for students reading



平成28～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～滋賀県立長浜北高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・身近な話題について簡潔な会話はできるが、生徒は「話す」ことに苦手意識を持っている。失敗を恐れず、幅広い話題について話せるようになるよう、様々な言語活動を体験させる。
- ・主体的な学びを実現させるため、Can-Doリストを生徒に提示して学習到達目標を明確化し、授業での言語活動・パフォーマンステスト・定期考査などで、その内容を踏まえた課題を設定し、その達成を目標に学習に取り組ませる。

具体の取組の内容

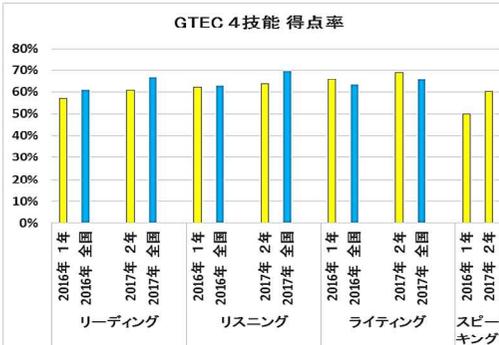
- ・授業での目標を毎時間生徒に提示し、目標を持って授業に取り組ませる。
- ・4技能統合型のコミュニケーション活動を多く取り入れた指導の推進と教材開発をする。指導の過程においてはペアやグループワークの工夫と充実を図り、生徒の英語による言語活動時間の増加を図る。
- ・学んだことを用い、自分の考えを自由に表現するクリエイティブな言語活動(ライティング、スピーチ、プレゼンテーションなど)を取り入れる。その言語活動を通して、何を学び自分はどう思ったかなどを英語で表現できることを目指す。
- ・活動ごとにパフォーマンステストを行い、ALTとJETで評価し、生徒にフィードバックする。また、生徒による自己評価と、ピア評価をさせる。
- ・学校設定科目のACTIVE English I～Ⅲでは、ALTとのTT・少人数授業・オールイングリッシュで様々な言語活動に取り組ませる。

ACTIVE English I・・・Recitation / Speech / Presentation ACTIVE English II・・・Small talk / Debate
ACTIVE English III・・・Discussion / Mini Debate / Picture presentation



小中高系統的英語教育推進事業に係る
第2回研究授業「ICTを活用したスピーチ」

成果①



成果②

- ・ACTIVE Englishにおいてオールイングリッシュで授業を行っている取り組みが他の科目にも広がり、ほとんどの授業が英語で行われるようになった。
- ・教員が現状に満足せず、他校の公開授業や様々な研修会等に積極的に参加し、自己研鑽に努めている。
- ・入学当初は自信がなく声の小さい生徒も、様々な言語活動を通じて徐々に「話す」ことに対する苦手意識がなくなってきた。

今後の課題・方向性

3年前の本校設立時のコンセプトである「県のモデルとなる実践的英語教育」と、大学入学共通テストの実施に向けた4技能の育成に取り組んできたが、一定の成果が見られる。今後、これまでの取り組みを継続していくとともに、ICTを活用し、生徒の学習意欲を高め、より「主体的・対話的な深い学び」を目指す。

☆課題☆

- ・小中との連携強化
- ・タブレットの活用のための教員のスキルアップ
- ・教員の英語力・指導力のさらなる向上